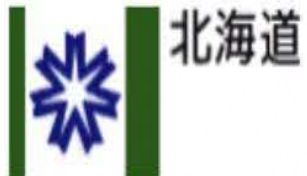


道営工業用水道

# 令和2年度決算と経営状況について



その先の、道へ。北海道  
Hokkaido.Expanding Horizons.

令和4年3月  
北海道企業局



# 損益計算書（北海道工業用水道事業全体）

## 1 令和2年度決算の状況

（単位：千円）

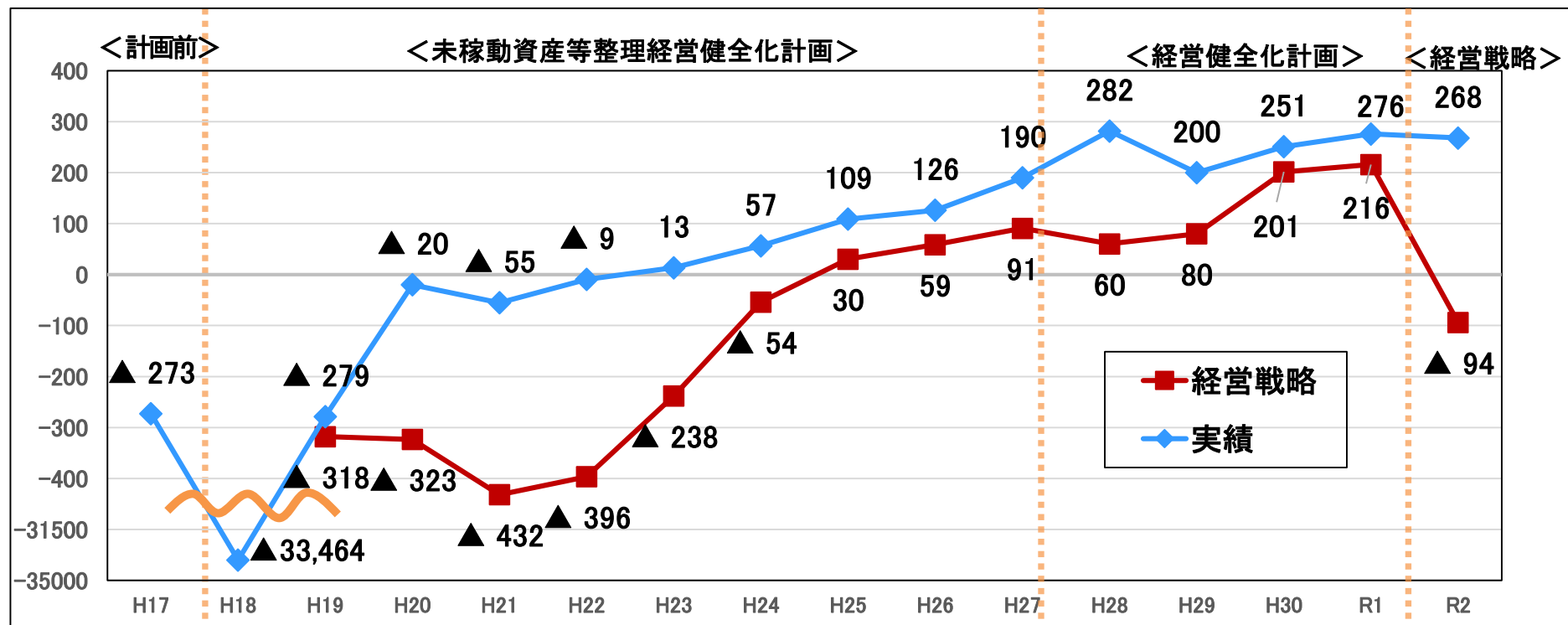
科目	令和元年度決算	令和2年度決算	増減	主な増減理由
営業収益	1,918,523	<b>1,799,231</b>	▲ 119,292	
うち給水収益	1,917,220	<b>1,797,917</b>	▲ 119,303	大口供給先の契約水量の減（主に室蘭工水の減）
営業外収益	200,055	<b>416,880</b>	216,825	
うち雑収益	629	<b>218,886</b>	218,257	減量負担金の一括納付による増
うち長期前受金戻入益	198,960	<b>197,581</b>	▲ 1,379	
<b>収益計</b>	<b>2,118,578</b>	<b>2,216,111</b>	97,533	
営業費用	1,695,168	<b>1,807,653</b>	112,485	
うち減価償却費	814,038	<b>903,457</b>	89,419	固定資産の供用開始に伴う増
うち修繕費	25,638	<b>59,765</b>	34,127	老朽化施設の増加による増
うち委託料	434,717	<b>408,219</b>	▲ 26,498	施設耐震化診断の完了による減
その他管理運営費	420,775	<b>436,212</b>	15,437	包括委託契約更新に伴う人件費などの増
営業外費用	141,894	<b>140,232</b>	▲ 1,662	
うち支払利息	141,846	<b>122,512</b>	▲ 19,334	起債残高減少による減
<b>費用計</b>	<b>1,837,062</b>	<b>1,947,885</b>	110,823	
<b>経常損益</b>	<b>281,516</b>	<b>268,226</b>	▲ 13,290	
特別利益	2,977	-	▲ 2,977	H25室蘭第三期改修事業に係る補助金の特定収入消費税、賞与引当金戻入の皆減
特別損失	8,322	-	▲ 8,322	
うち固定資産除却損	8,200	-	▲ 8,200	中央監視装置（石狩）※経過年数21年（耐用年数20年で一体償却）の皆減
<b>純損益</b>	<b>276,171</b>	<b>268,226</b>	▲ 7,945	

（注）表中における計数は、それぞれ四捨五入によっているので、計とは一致しない場合がある。

## 2 経営改善の状況

### 損益の推移

(百万円)

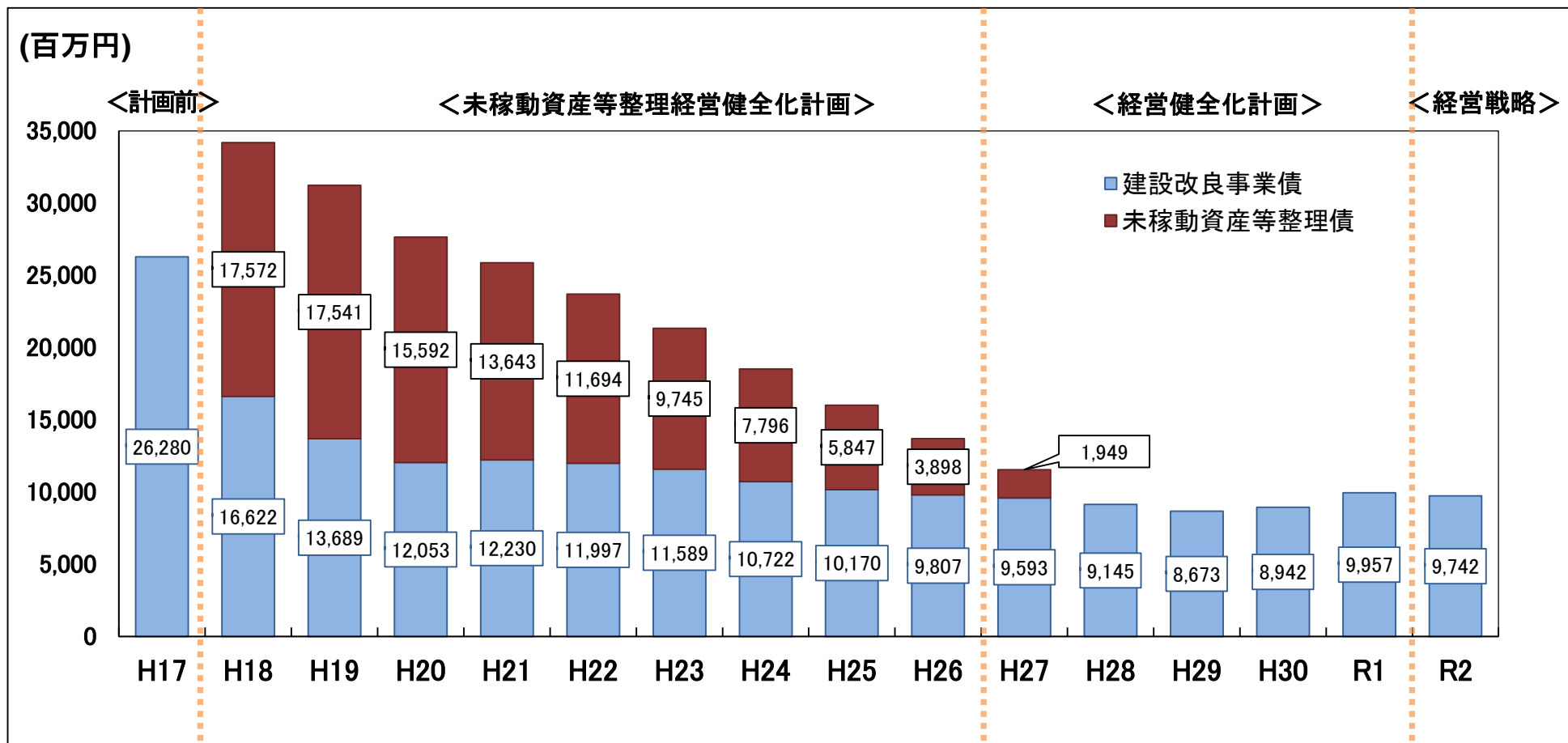


○未稼働資産整理を行ったH18年度は、資産処分に伴う特別損失の発生により、33,464百万円の純損失を計上

○未稼働資産整理後は、資産処分に伴う減価償却費の減や、企業債繰上償還に伴う支払い利息の減により収支が徐々に改善し、平成23年度に黒字化を達成。

○その後、令和2年度決算まで10期連続で黒字を計上。

## 4 企業債残高の推移

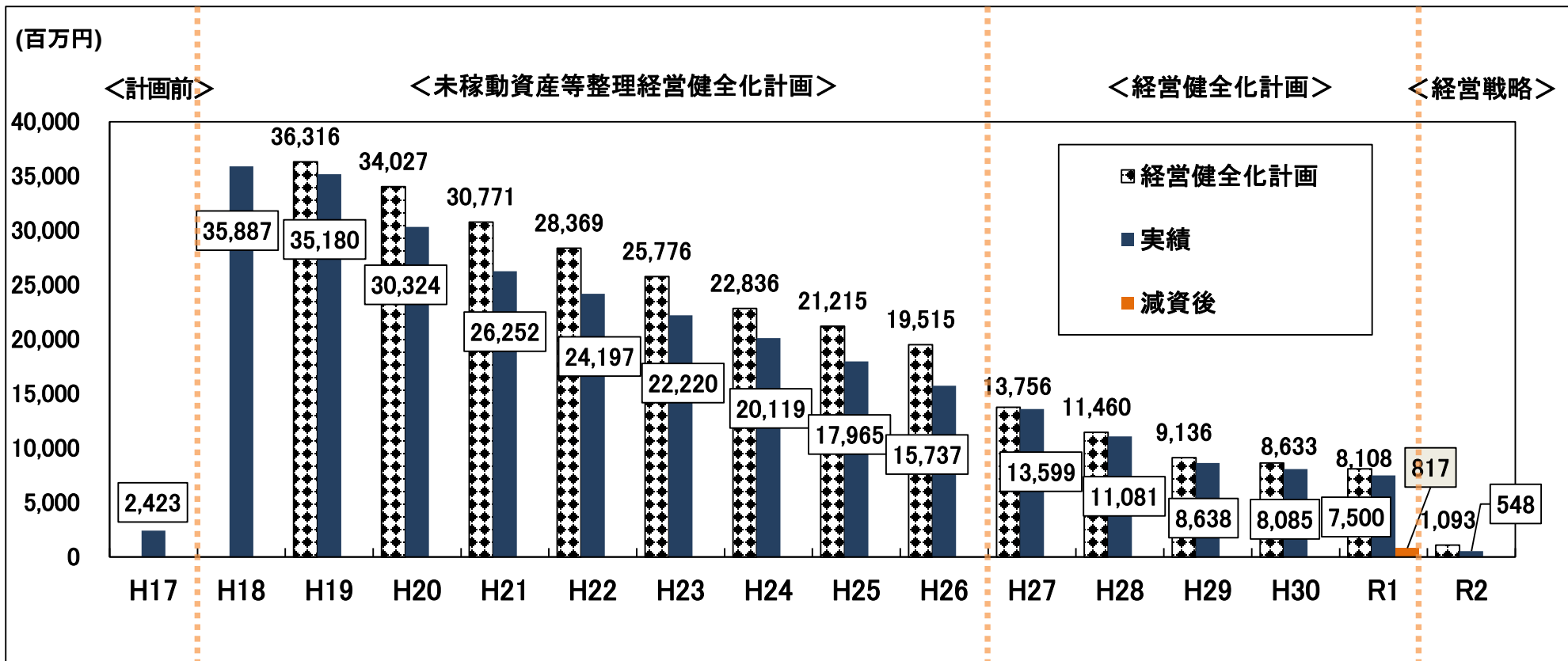


○未稼働資産整理債は平成18年度に約176億円、平成19年度に約17億円の合計約193億円を借り入れ、平成28年度に償還終了

○建設改良事業債は、未稼働資産整理に伴う繰上償還、並びに未稼働資産整理債への借換えにより平成18年度及び19年度に大幅に減少した。

○平成30年度以降は、施設の老朽更新・耐震化の推進により、高止まり傾向にある。

## 5 未処理欠損金の推移



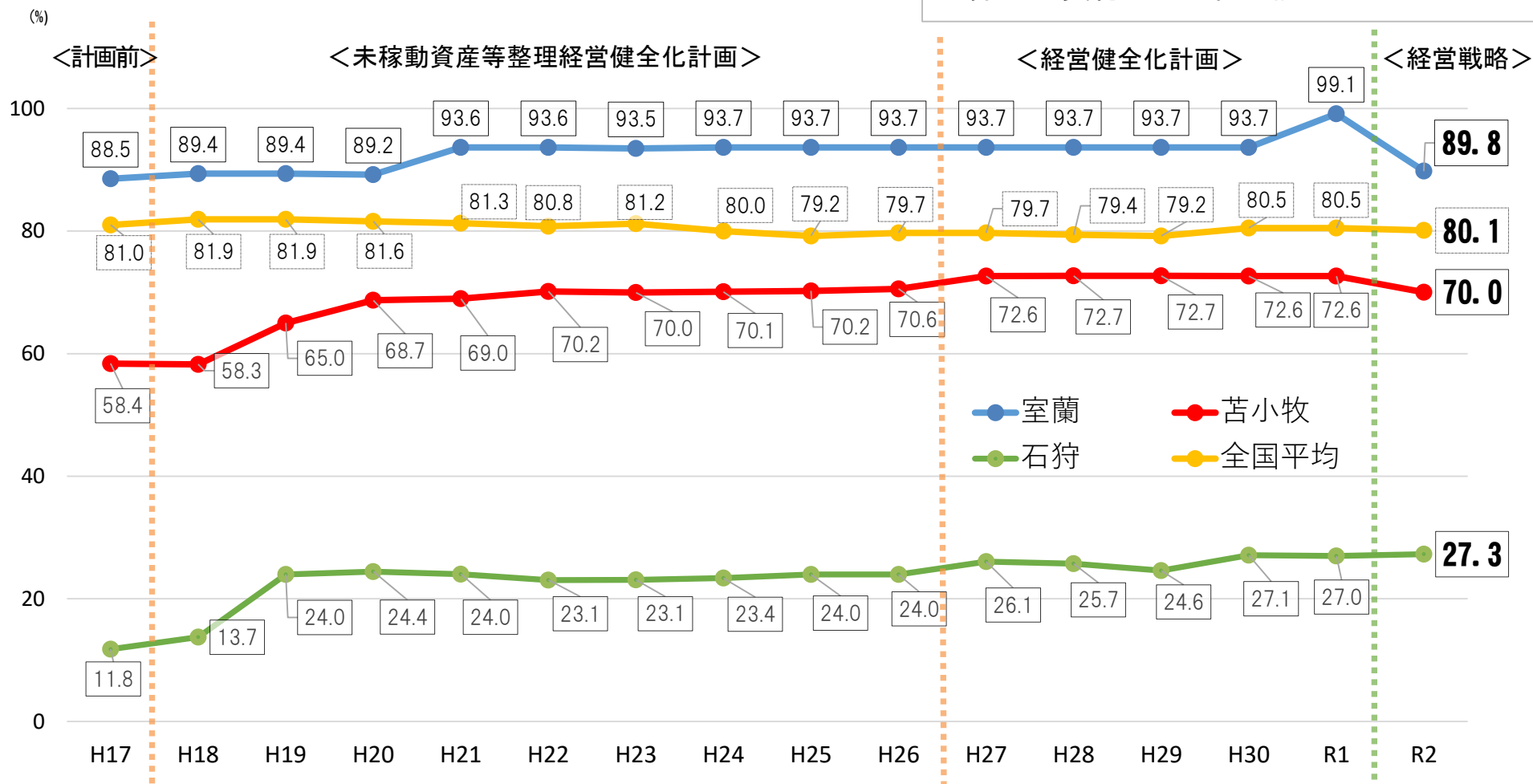
○平成18年度末の未処理欠損金は、未稼働資産整理に伴う当年度特別損失約334億円に前年度までの累積欠損金約24億円を加えた約358億円となった。

○この未処理欠損金については、資本剰余金(未稼働資産整理償還に対する一般会計からの補助金等)の取り崩し及び平成23年度以降の利益剰余金の充当により毎年度補填し、令和元年度末には約75億円まで低減しており、計画期間を通じ、計画以上の低減を達成。

○令和元年度に実施した減資により令和2年度期首における繰越欠損金は約8億円まで低減され令和2年度決算で約5億円まで減少。

## 6 契約率の推移

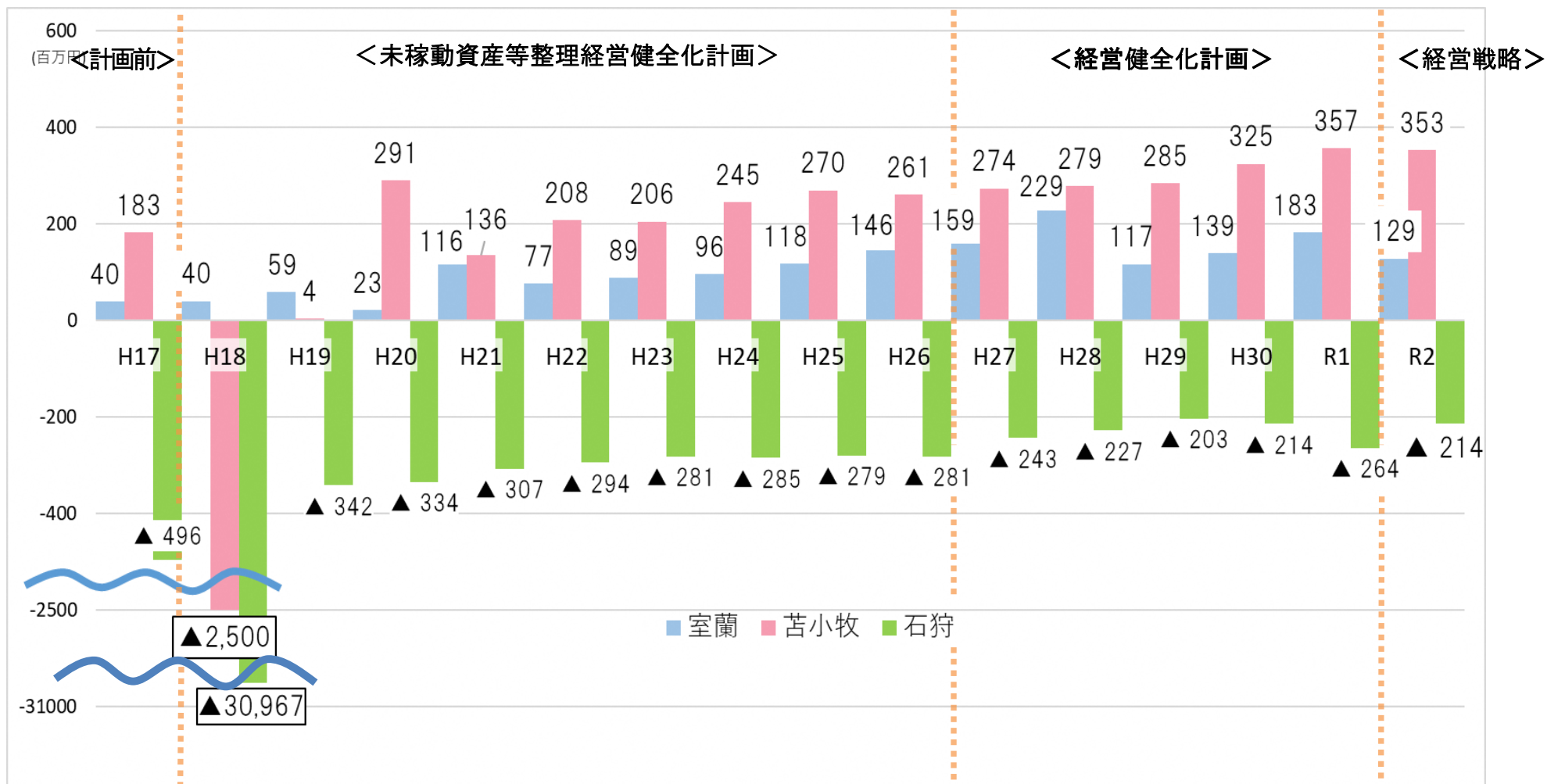
契約率は施設の収益性や効率性を表す指標  
 計算式：契約水量／給水能力×100(%)



○室蘭工水が全国平均を上回っているものの、苦小牧工水と石狩工水は全国平均を下回っている。

○特に、石狩工水においては、用水多消費型の企業立地が少ないことから、契約率は施設の給水能力12,000m<sup>3</sup>/日の約27%にとどまっている。

## 7 工水別損益の推移



○平成18年度末に苫東及び石狩工水の未稼動資産整理による多額の特別損失を計上した後、室蘭工水及び苫小牧工水については純利益を毎年継続的に計上している。

○石狩工水については契約率が低いことなどから依然として純損失を計上しており、これに伴う運転資金不足額について、一般会計から繰入を受けている。

【参 考】

## 北海道企業局経営戦略（R2年度～R11年度）

趣 旨	○企業局が経営環境の変化や、これに伴う経営上の課題等を踏まえ、計画的かつ効率的で透明性の高い経営を進め、将来にわたって道民へのサービスの安定的な供給を継続していくための基本計画として策定
策定年月	令和2年3月
計画期間	令和2年度から令和11年度まで（10年間）
目 標	○経営基盤の強化 ○工業用水の安定供給
主 な 取 組	<p>○経営基盤の強化</p> <p>①需要の開拓</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・工業用水需要開拓促進連絡会議により関係機関等と連携強化して企業誘致を推進</li> <li>・外部有識者による「北海道企業局工業用水道事業経営懇談会」の意見を参考に需要開拓を推進</li> <li>・広報・PRなど情報発信を推進(Facebook、メルマガ、ダムカード、工水カード等)</li> </ul> <p>②経費の抑制</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・施設管理運営委託の推進</li> <li>・企業債の据置期間等の見直し</li> </ul> <p>③適切な料金設定</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現行料金を基本とする</li> </ul> <p>④一般会計からの繰入金</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・不良債務の発生を防ぐための一般会計から繰入金を確保</li> </ul> <p>⑤石狩工水の事業運営</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・持続可能なお運営のため関係部局と検討を進める</li> </ul> <p>○工業用水の安定供給</p> <p>①管路の老朽更新及び耐震化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・費用の平準化を図りながら計画的に更新</li> </ul> <p>②施設（管路以外）の強靱化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・耐震診断結果を踏まえ、施設の重要性や劣化度合い等から優先度設定し耐震化計画を策定する。</li> </ul>